

花嫁街道ハイキングコースマップ

令和8年1月15日現在

[花嫁街道・花婿コース] ♪足にやさしいコースです♪

※コース全体が火気厳禁です

通行止



●花嫁街道の由来

山間集落の上三原部落と海辺の集落との交流の道、古くは塩汲みの道から生活物資の往来、学校への通学路として利用され、かつては花嫁行列もここを通って嫁いでいったことから、近年ハイキングコースとして整備され花嫁街道と呼ばれるようになった。昔とは多少道すじは変わってはいるが、歴史は古く、今でも経文石、じがい水、猿渡り、馬井戸、駒返し、桟敷塚（馬駆け場）等の地名が残されている。上三原部落も歴史は古く、賴朝伝説に出てくる名馬「スルスミ」を産出したといわれる磧（スルス）森部落、里見伝説の残る五十蔵部落、竹の中部落の竹は浜の漁業の必需品である満漁籠。魚樽の材料として売るために植栽され生活の糧となつた。現在も竹林は多く地名となっている。

●烏場山（新日本百名山）

ここからの眺望は素晴らしい。房総の山・清澄山・嶺岡・経塚山・御殿山・伊予ヶ岳など。伊豆半島・富士山・伊豆大島等も見える。双眼鏡があるとよい。

●絳文石

かつての道は下側を通り、50年くらい前までは見上げるとかすかにぼん字が読み取れたが、風化が進み現在は見えない。落石などの危険もあり、今は上を通るようになった。

● じがい水（自我井水）

二説あり、自我井水とも言われ、山中のかくし田の水利、水源に使われたとも言われている。

●黑滙·向西坊

長者川の中流にあり花園山奥地の水を集めて一気に落ちる。落差 15 m。向西坊は赤穂浪士の一人片岡源五右衛門の家臣で、後出家してこの地で入定した。

●浜千鳥の歌碑

花園海岸の松林の中、鹿島鳴秋が一人娘の死を胸に秘めながら作詞した『浜千鳥』の歌碑が立っている。

●抱湖園（花木園）

房州の花の開祖、間宮七郎平氏が昭和初期、古くからあった農業用溜池の上の岩山に池を抱くように石を積み、切花用としてつばき、エリカ等数十種の花木を植え、中でも寒桜は古木で60本と数は少ないが1月から2月末まではピンク色の見事な花をつける。

このハイキングコースは、「花嫁街道保存会」が
で整備をしています。マナーを守り、より良い
コースづくりに御協力をお願いします。

入浴時間 10:00から3:30
月曜定休
(0470-47-3390)

お問い合わせ

南房総市観光プロモーション課
電話:0470-33-1091
南房総市観光協会
電話:0470-28-5307

